

## 富洲原地区の概要

古くは漁師まちとして発展し今なお古い街並みが残る富田一色、半農半漁のまちから一転し宅地造成が進み人口が急増した天力須賀、かつては東洋紡績で発展し現在は大型ショッピングセンターが立地する松原の三つの地域で構成される富洲原地区は、四日市市の東北端に位置し、面積2.04km<sup>2</sup>、人口8,735人(平成31年1月1日現在)の市内で最もコンパクトな街です。地区内中央には、市民センターをはじめ児童館や公立の保育園、幼稚園、小学校が立地、北部には中学校が立地するというように、公立の幼幼小中各1校(園)ずつが設置されています。また、三つの地域それぞれに公会堂が設けられており、(松原公園や天力須賀公園、二つの海浜緑地、水と緑のせせらぎ広場などの公園も多く点在し、在宅介護支援センターや医療機関などの施設も充実したとても住みよい街です。

さらに、南北に国道1号及び23号、東西に八風街道(主要地方道四日市多度線)が地区内を通り、自主運行バス山城富洲原線も運行しており、加えて、近鉄川越富洲原駅やJR富田駅から近距離にあるといったとても交通の便のよい環境にあります。

このたび、当地区の皆さんに富洲原の魅力を再発見していただけるよう、この「富洲原の魅力再発見マップ」を作製しましたので、ご活用いただければ幸いです。

平成31年2月  
富洲原地区まちづくり推進協議会(歴史部会)  
富洲原地区社会福祉協議会(ホームページ委員会)  
富洲原地区市民センター

## 「富洲原」の地名の起源

朝明郡の「富田一色村・天ヶ須賀村・松原村」の3村が合併し、富田一色村の「富」、天ヶ須賀村の「洲(須)」、松原村の「原」の3字をとって、「三重朝明郡富洲原村」が誕生したのは、明治22年(1889年)のことです。

富田一色の「富田」の意味は、一説には「飛田」で、古代史で有名な「日本武尊白鳥伝説」で生まれた地名といわれ、「一色」は分村である「居敷」の意味で、先祖の人たちが「富田村」より移住してつくった集落と伝えられています。

天ヶ須賀の「須賀」とは「洲陸・洲見」で、引き潮で海辺が洲となると、自然と陸地となった地域のことです。「天ヶ」は「天野の人々」のことで、「南北朝時代」に河内国の「天野郷(大阪府南河内郡)」出身の人々が住み着いた「海辺の村」を意味する地名と伝えられています。

松原の地名は、奈良時代、当地に「聖武天皇」が行幸された際に読まれた和歌「妹に恋い吾の松原見渡せば、潮干の淵に鶴鳴き渡る(万葉集)」の「吾の松原」にちなんだ地名と伝えられています。

明治29年(1896年)に「朝明郡」は「三重郡」と合併し、大正12年(1923年)に町制を施行、昭和16年(1941年)には四日市市と合併して今日に至ります。

昭和40年(1965年)に実施された「新住居表示制度」のもと、地区名の「富洲原」の表示は現行のままとし、新しく誕生した町名は「富洲原」と「洲」を当用漢字の「州」に代え、「天力須賀」と「ヶ」を「カ」に代えて使用するよう各界の申し合わせにて決められたとのことです。  
参考:地区広報「とみすはら」No.38(平成12年3月20日発行)

## 富洲原の歴史

歴史的に当地区は、大化の改新(645年の乙巳の変)によって、伊勢国朝明郡に編入され、朝明郡豊田郷に属していたと伝えられます。日本書紀によると、壬申の乱(672年)に際し、大海人皇子(後の天武天皇)がこの地をご訪問されており、その後、天平12年(740年)聖武天皇の伊勢地方行幸の際、現在の松原の辺りをご訪問され、松原という地名はお詠みになった歌に由来すると伝えられています。

奈良時代の頃は、現在の国道1号以東は海で、松原の辺りに数戸の人家があっただけであろうといわれており、その後、浜洲が島となり陸地となり、富田一色や天力須賀が形づくられ、室町時代後期の頃には現在の地勢がほぼできあがったようです。

江戸時代になると、この地域は桑名藩に属し人家も増え、当時の地域別戸数は、天力須賀村約180戸、富田一色村約430戸、松原村約30戸で、主に漁業のほか廻船業に従事する人が多かったようで、文政8年(1825年)頃には、物資輸送の五十集(いさば)船が伊勢湾内の交易で活躍し、運河がよく利用されたようです。陸路についても、早くから八風街道が開かれていましたが、忍藩から江戸方面へ運ぶ年貢米が富田一色港から積み出され、富田一色から大矢知までの間が改修されました。

明治22年(1889年)に、三つの村は合併し、それぞれの村の名前から1字ずつをとって富須(洲)原村となり、その後、大正12年(1923年)には富洲原町となり、昭和16年(1941年)に四日市市と合併し現在に至ります。

## 富洲原地区のシンボルマーク



昭和56年、富洲原地区市民センターの庁舎竣工を記念し、住民の皆さんからデザインを公募し決定されたものです。「前進・向上と親睦」をテーマに、富洲原の片仮名表記の「ト」を基にデザイン化され、富田一色・天力須賀・松原の三つの地域と「くらし」「まなび」「ふれあい」を三つの輪にして、絶えず未来に向かい前進し続ける富洲原であることを象徴しています。



- 自主運行バスルート**
- 1 天力須賀二丁目
  - 2 富洲原センター
  - 3 富田一色郵便局前
  - 4 イオンモール四日市北